

2009年度 IWA-ASPIRE Conference & Exhibition 参加報告

広島大学 環境安全センター・助教
奥田 哲士

1. 参加学会名称と学会概要

学会名称：3rd IWA-ASPIRE Conference & Exhibition(International Water Association - Asia-Pacific Regional Group 2009；第3回 世界水協会-アジア-太平洋地域会議)

概要：IWA-ASPIRE Conference & Exhibition は水源管理から浄水処理，またそこで発生する廃棄物の再利用など，水に関連する幅広い分野を総合的に扱うアジア-太平洋地域の学会であり，世界水協会が主催して隔年で開かれている．この学会には東アジア地域の各国の研究者を初めとし，政府関係者，事業者，産業界，国際機関などの多様な参加者が参加する．本年度，第3回は台湾の台北市で行われ，各国の水に関する研究者が集い，300を超える口頭発表，約200件のポスター発表があり，日本からは約40件の発表が見られた．多様な発表が行われる本学会には，世界中の関連研究に取り組む研究者が集まるため，同分野の研究者同士の情報交換・交流のための重要な機会であった．

2. 開催場所及び開催期間

開催場所：台北市 (Taipei)，台湾

開催期間：2009年10月18日から22日

3. 参加学会全体の発表概要

水を中心とする「新規ビジョン，基準，計画，下水道計画，下水・廃水の収集・処理・管理，教育，研修，非点源汚染，湿地，分水，富栄養化，水道水質・処理・配水，小規模システム，再利用水，設備，環境浄化，衛生，保健，促進酸化処理，革新的技術（膜，ナノ技術等）」といったキーワードで15を超えるセッションが設けられていたが，近年では関心の高さから副産物である浄水や下水汚泥の管理や廃棄についても単独でセッションが設けられ，参加者（助成対象者）もそこで発表した．初日にはキーノートスピーチが4件あり，最終日にはテクニカルツアーも用意されていた．

4. 参加者の発表内容と質疑応答の感想

今回の発表は，浄水場における凝集沈殿処理で発生した浄水汚泥について，PACの回収，再生利用を念頭に，硫酸によるアルミニウムの回収（抽出）条件と除去後の汚泥の園芸土壌としての再利用性を評価することを目的とした研究であった．内容としては，湿潤汚泥ではpH 2.5以下，乾燥汚泥ではpH 1以下でないと80%以上のアルミニウムの除去およびリン吸着能の低減は達成できないことを報告した．また酸処理後の汚泥は，砒素とカドミウムの濃度が低減しており安全性を向上できており，かつ植生試験（コマツナ）を行った結果，生体中のリン含有量を増加させることができ，地上部の生重量も増加できることも報告した．

質疑としては，同様の検討を行っているという台湾の研究者から，酸処理においては酸の密度・粘度が高いことから固液分離が難しいのではないかとといった技術的なコメントや，酸処理のコストについての回答を求められた．また，他の酸を用いる可能性，特に有機酸の可能性についての

コメントを頂いた。これらに対して、技術的な部分については予備的な検討で行った他の酸の結果を紹介するなど回答，討論できたが，コストに関しては準備しておらず回答できなかった。本セッションの他の発表をはじめ，種々のセッションに参加し，それぞれの問題に対して各国の動向や考え方などを，研究発表を通して直接聞くことができ，本国際学会の参加は意義のあるものであった。

5. 当該学会の次期開催の情報（期日，場所，URL）

次回の当該学会は，2011年10月に東京で開催予定である。学会情報に関するURLは以下の通りであり，詳しくはホームページをご覧いただきたい。

最後に，本廃棄物学会研究支援事業（若手渡航助成）の支援による渡航により，国際舞台での成果発表が叶うと共に，大変貴重な経験と有意義な情報を得ることができた。末筆ながら，この場を借りて学会員の皆様，学会会長はじめ役員や事務局の皆様にご心からの感謝の意を表す。また，若手会員の皆さんには本助成のようなサポートを活用して，一つでも多く国際舞台で研鑽されることをお勧めする。

会議名称：4th IWA-ASPIRE Conference & Exhibition

開催期間：2011年10月2-6日

開催地：日本，東京（東京国際フォーラム）

アブストラクト締め切り：2011年1月31日

ホームページ：<http://www.aspire2011.org/>

【記入上の注意】

- ・ タイトル，構成は基本的に自由ですが，概ね上記のフォーマットのような形で作成して下さい。
- ・ 文字数はタイトル等も含めて **2000** 字程度として下さい。
- ・ 3. の「参加学会全体の発表概要」に関しては，学会全体としてどのような発表があったかを紹介するつもりで記述して下さい。
- ・ 個人の発表内容に関しては，参加者がどのような発表を行ったのか，及び質疑等を通して得られたことは何かといった観点から記述して下さい。
- ・ 報告の内容は「渡航助成対象者からの学会への情報・成果の還元を重視した場合，個々の発表内容よりも，他の学会員がその学会に参加しようとした際に有用となる情報を，その学会に参加した助成対象者から提供されることの方が，意義がある」という考えから，読者に学会の様子が伝わるように注力して下さい。
- ・ 昨年度の助成対象者の報告が，廃棄物資源循環学会 HP に掲載されていますので，参考にして下さい。 (<http://jsmcwm.or.jp/kenkyu/jisseki.html>)

(注)

- ・ 図，表など，他の発表者のものを掲載する場合は著作権などの問題から，必ず引用文献名を明記するようにして下さい。